

ポイント

◆◆特集◆◆

★平成30年7月豪雨からの復興、復旧活動について（中国地方）★

（国土交通省 中国地方整備局 道路部 道路管理課）

平成30年6月28日から停滞した梅雨前線の影響により、西日本では記録的大雨となった。この大雨により中国地方では膨大な箇所での通行止めが発生した。このうち広島都市圏の復興、復旧活動では、東西の広域交通ネットワークの確保を優先的に取り組むとともに、交通網が途絶した呉市の孤立を解消するため、東広島呉道路（直轄管理）や呉市と広島市を最短で結ぶ広島呉道路（NEXCO管理）、国道31号の交通確保を総力で行い、甚大な被災を受けた国道31号は5日後に暫定開通となった。本稿では、中国地方の道路の復旧状況や豪雨災害により新たな課題となった交通渋滞の対策について報告する。

◆◆道路占用Q&A◆◆

★東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会と道路占用について★

（国土交通省 道路局 路政課 道路利用調整室）

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会と道路占用についてについて解説する。

◆◆TOPICS◆◆

★「道路ふれあい月間」における道路愛護団体等の国土交通大臣表彰について★

（国土交通省 道路局 総務課）

国土交通省では「道路ふれあい月間」（8月1日～8月31日）にあたり、多年にわたり道路愛護の活動を行うなど、功績のあった民間の団体または個人に対して、感謝状を贈り、表彰することとしています。

本稿では、令和元年度に表彰された88団体88件、個人6名6件について紹介します。

◆◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◆

★飛騨高山における観光繁忙期の渋滞対策★

(国土交通省 中部地方整備局 高山国道事務所 計画課)

高山市では行楽シーズンや高山祭などの観光繁忙期に激しい渋滞が発生しており、渋滞対策は喫緊の課題となっている。この課題に対して、市街地へのアクセス経路を分散させて「車両の交通集中を防ぐ」取り組みのほか、ツイッターやフェイスブック等の SNS を活用したリアルタイム渋滞情報を提供するなどして「流入する自動車交通量を削減」する対策などに取り組んでいます。

.....

★ビッグデータを活用した交通安全対策★

(埼玉県 県土整備部 県土整備政策課)

本県の交通事故者数は年々減少しているものの、依然として全国のワースト上位となっています。そこで、カーナビデータを分析するなど、ビッグデータを活用した交通事故防止対策を進めており、県管理道路のほか、生活道路を管理する市町村の交通安全対策を支援しています。本稿では、事業概要及び取組み内容について紹介します。

.....

★ラグビーワールドカップ 2019TM に関連した

パークアンドライドや渋滞対策による道路整備について★

(埼玉県 熊谷市 建設部 道路課)

熊谷市に位置する熊谷ラグビー場が、ラグビーワールドカップ 2019 の会場の一つに選定され、観客及び選手・大会関係者の安全、迅速、円滑な移動を確保するための道路を整備しました。本稿では、市内交通と通過交通の適切な処理、大会関係者及び観客の輸送方策、交通輸送ルート設定の考え方を踏まえた道路の整備状況についてご紹介します。

◆◆編集後記◆◆

野外ロック・フェスティバルに出かけてきました。夜が明ける頃に出発し、渋滞に巻き込まれることなく、開場前に到着することができましたが、30度を超える炎天下、朝から晩まで野外にいることとなるため、熱中症への不安がいっぱいでした。

熱中症とは、暑さによって体内の熱を逃がすことができなくなって起こる身体の不調のことをいい、今夏は、気温の上昇に加え湿度が高く、例年に比べて熱中症リスクが高いといわれていました。その日の体調や体力にもよるようですが、気温や湿度が高い環境下で長時間活動するときに起こりやすく、めまい、頭痛、吐き気、けいれんといった症状に見舞われ、重症化すると生命に関わります。適度な水分補給や塩分摂取が大切であるほか、涼しい場所での休息などにより防ぐことができるといわれています。また、冷房のある環境にすっかり慣れてしまったことで、身体が「汗」をかけなくなっていることも熱中症リスクを高めている要因であるといわれています。

汗の一番の役割は身体の温度調整であり、特に熱に弱い脳を守るために機能しているそうです。汗の原料は血液で、血球を除いた血しょうが汗腺に汲み取られ、ミネラルなどの身体に必要な成分を残す過機能が働いたのち、水分が汗として排出されます。これを汗腺の再吸収といい、汗の質を大きく左右する重要な機能といわれています。再吸収の力が強い汗腺から出た汗は、限りなく水に近いので、皮膚面で蒸発しやすく、効率的な体温調節をすることができます。この汗を「よい汗」と表現する専門家によれば、臭うことなくサラサラしているそうです。一方で、冷房の利用や運動不足で汗をかくことが少なくなると、再吸収の機能が低下してしまいます。ろ過機能が十分に働かないため、身体に必要なミネラル等が含まれ、ベタベタとした汗となります。この汗は、蒸発しにくいので、体温調節の効率が悪く、大量にかくと、本来身体に必要なミネラル等も排出してしまうため、熱中症の原因となることがあるそうです。

よい汗をかくには、日頃から、温浴や軽微な運動で汗を流し、その汗の力で自然に体温を下げるなど、汗腺を鍛えることが必要だといえます。自身では、ここ数年の気温上昇により限界はあるものの、自宅ではなるべく冷房の力に頼ることなく過ごしています。また、日ごろより運動したり、湯船で温まるなど、1年を通じて、しっかりと汗をかける身体づくりをすることが大切であると感じました。ちなみに、野外ロック・フェスティバルでは、たくさんの水分を補給し、フェイスタオル約2枚分の汗をかくことができたほか、木陰での休息や適度な塩分摂取もしたので、熱中症に見舞われることはありませんでした。

余談ですが、「汗が目にしみる」という青春ドラマでよく聞いたフレーズ。よい汗は目にしみることはないようです。(U)